

(議長)

それでは、休憩を閉じて再開致します。

次に、小梅議員の発言を許可致します。

「小梅議員」。

「小梅議員」

それでは早速質問させていただきます。

追分大会のイベント民泊について、でございます。

毎年9月に開催されます江差追分全国大会の際に、出場者を町内に宿泊させるため、宿泊施設が足りないので、一般住宅を有料で泊めるイベント民泊の制度を活用致しました。初めての試みだったようですが、その結果はどうだったのか、お聞きしたいと思います。

まず、自宅提供者は何件くらいあって、参加者というか利用者の人数を十分満たすことができたのかどうか。

それから2番目に、お互い初対面のところもあると思いますが、トラブルみたいなものはなかったのでしょうか。

それから受け入れ側とか、受け入れ側と利用者側、双方からの意見や感想、良い点も悪い点も改善すべき点等も、色々を含めて、何か結果の声を聞いているのかどうか、お尋ねしたいと思います。宜しくお願いします。

「町 長」

議長。

(議長)

はい、「町 長」。

「町 長」

小梅議員からの江差追分全国大会イベント民泊の結果に関するご質問にご答弁申し上げます。

まず、実施した実績についてご報告させていただきます。民泊受け入れにご協力頂いたのは、14のご家庭で15の建物、宿泊実績は実数で75人、大会期間中の延べ、延べ数は194人となっております。皆様のご協力により、結果的には宿泊要望のあった皆様を全て受け入れることが出来ました。

また、トラブルや双方からの感想についてのご質問がございました。自宅提供者からは、宿泊料の精算時や鍵の返却時にそれぞれ口頭で意見をもらっており、ほぼ全提供者から宿泊者に喜んでもらえて良かった、というコメントに併せ、宿泊者の応援で大会を観覧したり、成績が気になったり、久しぶりに江差追分を聴きに、聴きに、聴いたり、江差追分全

国大会が身近に感じられたという感想も聞かれ、イベント民泊の実績により、町民と江差追分を近づける機会にも寄与したものと総括しております。

一方で、利用者からは、アンケート用紙による感想を頂きましたが、江差町内に宿泊出来て良かったという感想が最も多く聞かれ、さらに自宅提供者からの歓迎、おもてなしに対する感謝とお礼の言葉が多く見られました。

最後に、反省と改善についてのお尋ねですが、今回初めての取り組みでもあり、反省点も少なくありません。1つには、海外の方の受け入れも1組あり、生活習慣の違いで自宅提供者が少しご苦勞されたと伺いました。今後の民泊推進においては、双方に文化の違いの対策について、事前に伝える必要性を強く感じました。

また、宿泊施設と宿泊申込者のマッチングに多大な時間と労力を費やしました。次年度に向けては、利用者からのアンケート結果を民泊受け入れ協力者へ、協力者へしっかりお伝えするとともに、自宅提供者、宿泊者双方に喜ばれるイベント民泊の継続性や効率のよい仕組み作りを目指して、目指し、定着と充実を目指して参ります。

最後になりますが、この場をお借り致しまして、受け入れ頂いたご家庭のご協力と、ご理解とご協力のおかげで無事に実施出来ましたことを、に感謝申し上げ、答弁と致します。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。

今、ただ今結果を聞きましたところ、ほぼどちら、双方ともに何かいい結果が出まして、それぞれの繋がりも出来て、追分大会の、も随分、少しは盛り上がったようで、ますますそういう関係が続いていければと思います。そして、今まで近隣の町村とか函館とかに宿泊していた人たちが本当に江差の、江差町内に泊られるようになることは、飲食店であっても観光施設等を利用にも繋がって、経済効果もあると思いますので、出来る限りこの制度を続けていってほしいと思います。そして、ますますそういう良いことがあるのだったら受け入れ家庭も段々口伝えにでも伝わって行って、たくさん増えていくと思いますので、そういうことで繋がりを持ちながら、ますます大会自体も広がりを持っていくように思います。せっかくの良い制度ですので、本当にやりっぱなしということではなくて後のこともきちんと次に繋げるようにすることが大切かと思いますのでどうぞ今後とも宜しくお願い致します。

以上で1問目は結構でございます。

(議長)

1問目はいいですか。

「小梅議員」

何かいい結果が出ましたので。

(議長)

そしたら2問目。

「小梅議員」

良い答えを聞いて良かったです。

それでは2番目続けます。

学生議会、中高生を対象としたその議会の開催について、でございます。

役場の中とかでは、あまり中学生とか高校生を見かけることが無いのですけれども、今、包括でやっている「まちカフェ」なんかにはたくさんの中学生・高校生が参加してくれて活気付いています。大人もすごく元気になって活気付いています。この、彼らは、この町で直に生活していて、過疎のこととか高齢化等も本当肌で感じて、不便なバス通学をしながら、色々なことを感じながら、色々な意見をもって発表してくれます。そして、感じることはすごく郷土愛、愛が強いということなのですね。そんな中で、選挙権も18歳からとなりましたし、この際、中学生・高校生たちをもっと地域のことに、政治のことに興味を持ってもらいながら、大人と違った発想の提案を得ることが出来ればいいのかと思って、学生議会の開催とかが出来ればどうなのかなと思います。如何でしょうか。

それはまた、選挙の投票率の向上のためにも、繋がっていくと思いますので、如何でしょうか。それから、ちなみに前回の衆議院議員選挙の時の18歳、19歳の投票率はどのくらいだったのか、お聞きしたいと思います。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

小梅議員の2問目、中高生を対象とした学生議会に関してのご質問でございます。

政治への関心、地域への関心、そして豊かな発想を得るために中高生を対象とした学生議会を開催してはどうかというご趣旨であったと思います。

これまでは、政治への関心という観点では、江差北中学校による議会傍聴や、道選管・町選管においても江差高校での模擬投票、さらには江差高校と江差高等看護学院への啓発活動も行って頂いております。

また、地域への関心という点で申し上げますと、教育委員会でのふるさと学習の一環として、江差中学校の全校生徒に対し、私からの講話やまたその時の予想以上の質疑を受け

た授業もございましたし、町内小中学校の児童生徒と給食をともにし、会話する中でまちづくりへの関心を抱いてほしいという想いから、学校へも積極的に出向いて参りました。

いずれに致しましても、議員ご提案の政治への関心、地域への関心、豊かな発想を得るためには、学生議会は有効な方策と考えますが、江差高校の場合は、江差町出身者以外の生徒もおり、課題もあると思われまことから、その他の方策も模索しながら、また、町内中学校生徒への対応策としては、教育委員会をはじめ、各学校とも十分協議した上で検討して参りたいと考えております。

最後に、今年10月22日執行されました衆議院議員総選挙での18歳、19歳の投票率は126人中64人の投票で50.79パーセントであり、このうち高校生の投票者数は30人中23人で、投票率76.67パーセントとなったところでございます。

(議長)

はい。

「小梅議員」

はい。ありがとうございました。高校生もけっこう関心持って。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

投票しているのですね。本当、高校生のあの何ていうのかな、意識ひとつで、地方の選挙なんかはちょっと変わってくると思いますので、ますますそういうことも大事だと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

終わります。ありがとうございました。

(議長)

はい。これで小梅議員の質問を、一般質問を終わります。

小梅議員。あの、自分の意見は、差し控えてください。質問をしてください。

「小梅議員」

はい。

(議長)

はい。この次から気をつけてください。

「小梅議員」

はい、分かりました。